

ご利用になる前に必ずお読みください

このPDFファイルの内容についてのご質問・お問い合わせは株式会社アスキー・メディアワークスでは一切お受けできません。ご自身の責任においてご利用ください。



この作品は、クリエイティブ・コモンズの表示-非営利-継承 2.1 日本ライセンスの下でライセンスされています。この使用許諾条件を見るには、<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/>をチェックするか、クリエイティブ・コモンズに郵便にてお問い合わせください。住所は：171 Second Street, Suite 300, San Francisco, California 94105, USA です。

このファイルをクリエイティブ・コモンズの表示-非営利-継承 2.1 日本ライセンスに基づいて利用する際には、下記クレジットを必ず作品や配布物に表示する必要があります。

クレジット：

- まんが/榎田道也
- デザイン/シオズミタロウ
- 初出/株式会社アスキー・メディアワークス「Ubuntu Magazine Japan vol.03」
(<http://ubuntu.asciimw.jp/>) 2010年2月23日発行

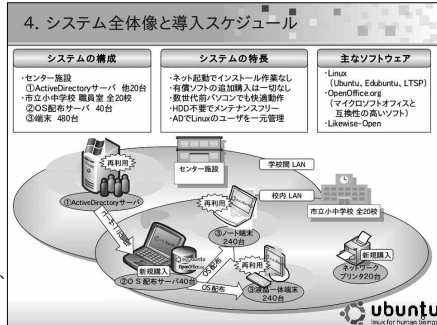
「Edubuntu」で不要パソコンをリサイクル!



■(写真左から)市長の右腕、堀口参事。4月からの新人だが、前乗りで来ている植木さん。本プロジェクトの中心人物、那谷担当主査。プロジェクトブログの中の人でもある。また、この写真を見ればわかるように、箕面市は「ゆず」と「サル」で有名な平和な市である。ゆるキャラ「満ノ道ゆずる」もほほえましい。

大阪府・箕面市役所
Edubuntu担当

■新たに購入するのは、OS配布用のEdubuntuサーバにするノートパソコンとネットワークプリンタのみ。クライアントPCは、起動のたびにEdubuntuサーバからOSをダウンロードして起動するうえ、アプリケーションの処理はEdubuntuサーバ上で実行されるので、クライアントは古いPCでも快適に動作する。また、クライアントPCのHDDを使わないため、故障や個人情報漏洩等の心配が少ないというメリットも。



Ubuntu
のことなら
なんでも!!

うぶんちゅ 友達の輪 Friends of Circle

世界と日本に広げよう
うぶんちゅ友達の輪!

はたして不要PCの再利用に ライセンス料と追加投資は必要か?

一般的に、お役所というのは納税者から嫌われている、と考えて差し支えない。「血税を浪費」「仕事しなくせに給与が高い公務員」「業者と癒着」「ハコモノ作って魂入れず」など、悪口ならいくらでも思いつく。が、「お役所なのに、なんだかフレッシュな試み」が箕面市でスタートしている。小中学校で不要となるパソコンにEdubuntuを入れて再利用する、というプロジェクトだ。話題になったので覚えていて人もいよう。今回は、箕面市のEdubuntu担当・那谷さんにプロジェクトをスタートするまでの経緯をメールで聞いた(編集部・サトリツ)

プロジェクトがスタートするきっかけを教えてください。

ひとことというところ、市長の「ムチャぶり」です(汗)。20校ある箕面市立の小中学校には、生徒用に「コンピュータ教室」があり、41台ずつパソコンがあります。それも平成12年導入の初期型iMac(中学校)や平成14年導入のWindows 2000機(小学校)などで、何年も前から、教育委員会では「新調したい」と予算要求していたのですが、パソコン800台以上あるので、億近いお金が必要であるため、このご時勢ではなかなか予算がつかずにいました。ところが去年の7月ごろ、前政権のもとでいろいろと景気対策

が打ち出され、そのうちのひとつ「学校ICT環境整備事業」(スクールニューディール政策)という補助金に箕面市も応募し採択されそう、となったため、急に「小中学校コンピュータ教室のパソコン入れ替え」をやることになりました(こちらの事業自体は教育委員会が実施)。

ふむ。個人的にはそのスクールニューディール政策ってのがなんだかバラマキっぽく感じますけど、それは国政の問題ですもんね。箕面市としては採択されてラッキー、と。

そこで問題となったのが、入れ替えにより要らなくなる旧型パソコンの処遇です。教育委員会は、「さすがに初期型iMacはもういらないが、Windows 2000の機は、職員室で再利用したい」ということで、そのために必要な予算を要求しました。何の経費かと言えば「小学生用でMSオフィスが入っていないかったため、そのライセンス料」などです。

先生はひとり1台PCが与えられてるわけじゃないんですね。

学校現場では、理想としては「先生1人に1台のパソコンを支給」としたいらしいのですが、現状は3人に1台ぐらい(623名に対して268台、成績処理など共用前提のものも含む)です。この状態を一気に解決することを考えたわけですね。

「そんなムチャなことを急に言われても」というのが正直なところでしたが、もう一方で、「中古パソコンを500台も再セットアップすること自体もそうだけれども、そもそもそれを日々運用していき

確かに、500台にMSオフィスだけを入れるとしても、1000万以上は軽いかかりそうですもんねえ。市長さん、わりとシツカリ者ですね。

とはいえこのご時勢、捨ててしまえ、とも言えないという問題意識もあります。で、我々が9月のある朝、のんきに出勤したら、市長から「この件については総務部情報政策担当での責任でプランを作れ(すべての課題を解決せよ)」という指示が来ていました。

そこで、Edubuntuを使うことを思いついたのが那谷さんというわけですね。

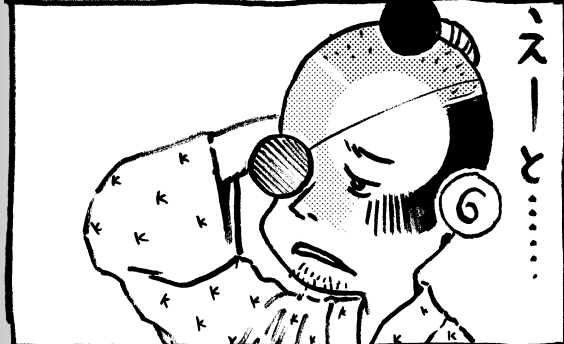
「そんなムチャなことを急に言われても」というのが正直なところでしたが、もう一方で、「中古パソコンを500台も再セットアップすること自体もそうだけれども、そもそもそれを日々運用していき

侍 津之介

うぶん つのすけ

榎田 道也

クローム天下無双!の巻



今がブラウザ戦争の関ヶ原!
がんばれ、僕らのうぶんつ侍!

「なぜこれほどずばりなものが世の中に普及していないんだろ?」と市長は言った

「だろうか」と横目で見ながら心配していましたので、「市長のムチャな注文」も満たし、かつ「教育委員会の限られたマンパワーでも運用していける」という仕組みがないか、いろいろリサーチしました。予算的にも、後年の運用的にも、人数分の機械やライセンスを買ったり、高価な機器を買ったりすることはできません。必然的に「LinuxやOpenOffice.orgなどのOSSを使うしかないな」と思いました。ただ、それだけでは「教育委員会の限られたマンパワーでも運用していける」という条件からむしろ離れてしまいます。実は、私が一番心配したのは、機器保守の負担でした。

——ぶっちゃけ、いつ壊れても不思議じゃない中古でもええな。何年か前に、シンクライアントについて調べていたことがあり、「LTS P (Linux Terminal Set Ver Project)」の存在自体は知っていました。その時はそのままにしていたのですが、ひょっとしてLTS P方式ならこの問題をクリアできるんじゃないか、と思いつきました。当時は成功しなかったテスト環境構築も、Ubuntuの流れを汲むEdubuntuでは、なんとかかんとか動かすことができました。さっそくテスト環境を用意し、市長に提案した時の様子が、市長ブログのエントリに書かれています。

す。市長はひと目みて気に入りました。逆になぜこれほどまでにすばらしいものが、世の中に普及していないんだろ? というか、私はこんな初め見たと言われました。

私は「単に知られていないから、というだけでしょう。知られば、普及するものだと思います」と答えました。

——普通は、市長がシステムを理解できなくて、プロジェクト自体にゴースサインが出ずに埋もれちゃう気がしますけど。なんか、普通と違いますねえ。

「それと、この仕組みでやるのはいいのですが、実務の構築・運用

は、想定し切れないトラブルがあるんで、完全に私だけでやるのは無理だと思います。かと言って、このシステム構築を請け負ってくれる会社も探すのが難しいでしょうし、そこにお金を掛けていたら、意味がありません。ここはひとつ、「市役所がLinuxを使うのでボランティアさん募集します」的なキャンペーンを打つしかないんじゃないでしょうか。」と口走りしました。その後は報道発表のとおりに、ありがたいことに40を超えるサポートのお申し出をいただき、13団体様にお願ひしている、という状態です。

——金は使わず知恵を使いますねえ、箕面市は。

市長にプレゼンするためにEdubuntuのテスト環境を用意したり、キャンペーンを打ったり、箕面市のお役人はアイデアを思いついてから行動に移すまでが異常に迅速だ。今のところ、私の持つ「お役所だからXXでしょ」という先入観はいい意味でかなり裏切られている。「やるな箕面市」という感じだ。

今後このプロジェクトがどうなるのか、かなり興味が湧いてきた。地方自治体に負けず劣らず当編集部予算も限られているので、今回はメールインタビューとなったが、Edubuntu導入の成否、次号は現地取材でチェックするのでお楽しみに!